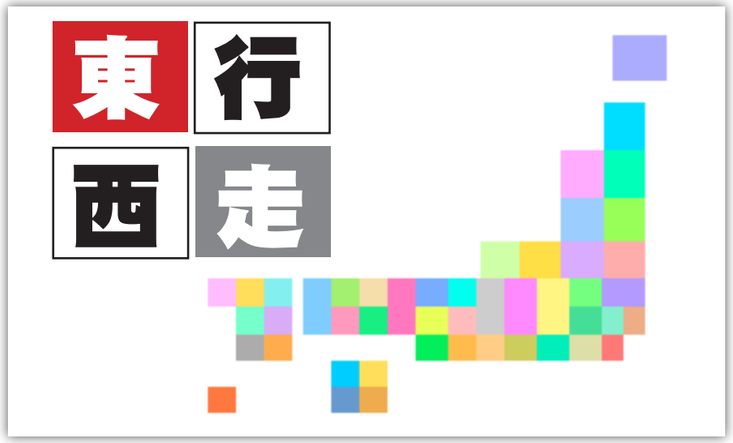
santama



第5回 三多摩支部

このコーナーは都道府県ごとに各支会、支部の皆様にご協力を得て、いきいきと活動する地域の声を紹介します!(^^)!

【三多摩支部研修会】 活動理念

「出会い、触れ合い、支え合い」

1．プロローグ

出会い	触れ合い	支え合い
新たな 発見を 求めて	心の 喜悲に 寄り添い	足らざる ものを 補い合う

三多摩支部は、すべての人が全人的存在を実感できる、そうした受け皿づくりを目指している。
全人的存在は、

①仕事の場で　②生活の場で　③社会貢献の場で

それぞれ実感できる。
JIMA 憲章に書かれている、

①高い品性の保持
②信用第一
③創造性に富んだ、ゆとりのある豊かな人間

は全人的存在の実感から醸成されるものと考えている。

2．地域の紹介と活動内容

三多摩エリア

1．まず、三多摩という名称について一言

●三多摩とは、東京２３区と島以外の東京・多摩地区を３分割（北多摩、西多摩、南多摩）した場合の総称である

●多摩郡は当初四多摩あったが、東多摩（現在の杉並、中野）はもともと東京府に帰属。神奈川県に所属していた三多摩（北、西、南）が1893 年に東京府に移管された。

●今は三多摩という呼称はない（地名として残っているのは西多摩のみ）

2．研修会こそが三多摩支部の生命線

かつては企業先訪問等による社会見学も実施したが、会員の平均年齢が高くなるにつれ、座学中心となるが支部のおかれた環境に則し、研修会が三多摩支部の生命線となっている。

研修会は６月と８月を除き毎月実施され、講師は会員が相互に担当し、テーマは経済、経営、流通、財務、税務、法律、国際問題、福祉問題、環境問題、文化、芸術、思想、哲学、倫理等々多岐に亘っている。

学ぶことに意義があり、研鑽を積むことが自己成長に繋がる、との信念のもと、その「場」の提供が研修会である。

【研修の様子】

【石田三多摩支部長】

【調布八景の一つ「千年の藤」】

3．活動の拠点は調布市（たづくり）

調布市で有名なのは､「調布七福神」「調布八景」「深大寺」「神代植物公園」「国立天文台」等々が挙げられるが、やはり一番は深大寺そばで有名な「深大寺」である。深大寺は７３３年に創建。東京では浅草寺に次ぐ古刹であり、深大寺の名は湧水の豊富なこの地にまつられた深沙大王にちなんでつけられたといわれている。都心からも近く武蔵野の面影を残す憩いの場として人々に親しまれている。

研修会のメイン会場は「たづくり」。たづくりの名前は万葉集の「多摩川にさらす手（た）づくりさらさらに何ぞこの児のここだ愛（かな）しき」（多摩川で布を晒す乙女に恋焦がれる様子を詠っている）から来ている。
「たづくり」は文化、芸術、情報の発信基地として地域の多くの人が「手づくり」で参加するのと、この万葉歌の「手（た）づくり」とを掛けて命名したのである。
三多摩支部の活動も「手づくり」で、の思いを込めてメイン会場として使用している。
ついでに調布の由来について。調布の〝調〟は税金のこと。この一帯は布の名産で、この布を税金として朝廷に納めたことからきている。

都内でも屈指の古刹深大寺

深大寺の水神「深沙大王」

世界最先端技術を誇る「国立天文台」

研修会のメイン会場「たづくり」

多摩市民憩いの場「多摩中央公園」

4．活動のハイライトはシンポジウム

毎年、晩秋の多摩路に聳える桜美林大学多摩アカデミーヒルズにて、全員参加のシンポジウム形式による討論会を開催している。
因みに最近３年間のテーマを振り返ると―

２０１１年 「これからの日本」

東日本大震災直後のことであり、これからの日本の行く末と企業が苦しむ６重苦（円高、高い法人税、労働規制、温暖化対策、自由貿易協定の遅れ、電力不足）について討議。

２０１２年 「財政の在り方を問う」

基礎的財政収支（プライマリーバランス）を２０２０年度に黒字化する、というのが国際公約。１９９２年度から２０年に亘り赤字の状態が続く我が国の財政と再建の処方箋について議論。

２０１３年 「TPP 問題を考える」

TPP の交渉は２１分野。このうち関税交渉は複雑になりやすいため２国間協議を軸に進めている。アメリカは関税自由化率１００％を主張、日本は９６％で何とか決着させたいが難航中。TPP の賛否両論についても討論。
まだまだ議論しなければならないテーマは山積している。政治、経済、外交、例えば「アベノミクスの４大改革」「日銀の金融政策」「日本外交の是非」等々。

しかし、いづれやらなければならないテーマは「日本人としての覚悟」であろう。覚悟をもって生きなければならない時代はもう来ている。
このシンポジウムでは、大きなテーマを取り上げたいと思っている。
また、シンポジウムの他に施設内で入浴、会食、歓談、カラオケを楽しみ、会員相互の親睦とリフレッシュを図っている。

3．エピローグ

当協会は来年創立６０周年を迎え「原点回帰と第二創業」を掲げ、新たな発展の節目と位置づけている。三多摩支部では、「歴史を残す」「継続こそ力」を掲げ邁進していきたい。
「歴史を残す」の一つが三多摩という名称である。地理的に三多摩という呼称がなくなっても三多摩という名称を語り継ぐ。それが歴史の重みであり、証しであると思うからである。「継続こそ力」は小さなことでもコツコツやる、やり続ける、それがいづれ実となり、花が咲くと信じているからである。
これからも協会の１エポックとしての存在を意味する支部であり続けたいと思っている。